

私たちの町の遺跡

大名墓物語 細川家の人々

■第9話 殉死の殉死

江戸時代には、17世紀中頃に幕府の禁令が出るまで殉死の風習がありました。妙解寺（みょうげじ）跡にある肥後細川家2代藩主光尚の墓の脇にも、跡を追って腹を切った家来達の墓石11基が立ち並んでいます。全て同じ形・大きさです。これは、その死が藩主への忠義による公的なものであることから、家ごとではなく、藩が取りまとめて墓を造ったことを示しています。

ただし、光尚の死に関係して死んだ人の数は11名には留まりませんでした。殉死した家来の、その家来が主人の跡を追っているのです。光尚に殉死した里杵之助（さと・もくのすけ）の家来、松本仁左衛門もその一人です。仁左衛門の墓は妙解寺跡にはありません。下通2丁目の泰蔵寺という寺に、目立たずにひっそりと立っています。

話は替りますが、長崎県大村市本経寺にある大村藩主墓所。そこには、3代藩主純信に殉死した小佐々前親（あきちか）という重臣の死に際して、その茶毘の火中に飛び込んで死んだと伝わる前親の愛犬、華丸の墓があって、それは藩主墓のすぐ脇に置かれています。

殉死の殉死。犬だと大切に扱われますが、人間だと・・・。
判らないでもありませんが、やはり複雑な気持ちになります。

熊本市文化振興課 美濃口雅朗

泰蔵寺 松本仁左衛門墓



大村市径寺 華丸墓



主君の死に際して家臣が自害
することを殉死といい、通例
切腹によって自害したこと
から「追腹」ともいわれるそう
な

